

国語科授業場面におけるディスコミュニケーションに関する研究 1

: 小学校詩教材「雑草のうた」授業場面の事例分析を通して

松 本 修

1. 研究の対象と方法

1. 1. 対象となる授業

「国語科授業場面におけるディスコミュニケーションに関する研究 序説」*1 において、次のような研究の方向を確認した。

ディスコミュニケーションの分析において、①授業における小状況的文脈の検討 ②授業を包む大状況的文脈の検討 ③言葉の解釈にかかわる多様な基準（コード）の相互関係の検討 がなされることになる。これら三つは、それぞれさらに下位区分されるパタンを持つであろう。特に③は、テキストそのものによる解釈の他に、人間関係や経験そのものに依拠するような解釈も含む（特に小学校などにおいては）ものと考えられ、さらに多様なものとなる可能性がある。

今回とりあげる授業は、「教育技術の法則化運動」で知られる実践家、向山洋一氏によるもので、公開研究会でのいわゆる飛び込みの授業である。その点で②の大状況的文脈に特殊な条件があることになる。また、③の解釈上の問題において、人間関係などの要素が入り込む可能性がある。やや特殊な事例ということになるが、興味深い現象も見られたので分析を行うこととした。

1. 2. 授業データ

授業日時 1997年9月22日 11:15~12:07

授業クラス 新潟県佐渡郡佐和田町立沢根小学校6年 25名ほどのクラス

参観者 約1000名 体育館を会場とした。

1. 3. 研究の方法

授業の撮影記録 今回は黒板側学習者に向かって左におかれた三脚に固定したビデオカメラによって撮影した。分析者が参観した位置に近い。

トランスクリプト ビデオの授業記録を時間に沿ってトランスクリプトを作成した。形式については前回にほぼ準じるが、トランスクリプトの最後に凡例を示してある。

今回は刺激回想記録は採取できなかった。また、分析に対する授業者のコメントも得ていない。

*1 松本 修 「国語科授業場面におけるディスコミュニケーションに関する研究 序説 一高等学校「古文」授業場面の事例分析を通して」『Groupe Bricolage紀要』15 Groupe Bricolage 1997.12

2. 「雑草のうた」の授業におけるディスコミュニケーションの事例分析

2. 1. ディスコミュニケーション場面の認定

トランスクリプトの1分40秒からの部分に次のような場面がある。

14.40	T 46	O君、O、あ、終わったかな。…おいで。…おいで。ノートを持ってらっしゃい。 (以下、小声で一对一のやりとり)
15.09	T 47	この問題いいな。どこでもいいから後ろの黒板に書いて。ちこちこちこち。問題出して、答えは出さないで。問題ここまで書いて。黒板に。
15.29	T 48	これいいなあ。どこでもいいから空いているところに書いて。書きやすいところに書いて。問題ここまで書く。
15.45	T 49	難しいなあ。 (8秒)
15.52	T 50	全部難しいや。よし。この先続けよう。
15.57	C 21	えっ?えっ?
15.58	T 51	全部難しいから、こん次やる。(席に戻す)
16.04	T 52	これも難しい。はい。この後続けて。(席に戻す)
16.14	T 53	次。これ書いて。隣じゃなくていい。こっちの方でもいいよ。間が空いている方で。 はい。
16.27	T 54	うん。じゃ、書いて。どこでもいい。はい。これな。
16.41	T 55	はい。どこでもいいから書いて。はい。よし。いいぞう。
16.52	T 56	はい。これ。
16.57	T 57	じゃ問題書いたら、その下に自分の名前を書いて。
17.16	T 58	うん、難しいな。
17.25	T 59	これにしようかな。どこでもいいから黒板書いて。どこでもいい。
17.31	T 60	はい、途中まででもいいから、4つ書いた人持っておいで。まだ持ってきてない人。まず書いて。黒板に書いた人はまた席につくんだぞ。4つ書いた人持っておいで。
18.01	T 61	うん。じゃ、これ書いて。
18.07	C 22	先生名前書く。
18.08	T 62	名前下に書くの。
18.16	T 63	はい。じゃ、これな。ここからここまで書いて。どこでもいいから。はい。
18.29	T 64	これはいい。わかりやすい。どこでもいいから書いて。
18.48	T 65	どこでもいいから書いて。
19.00	T 66	はい。じゃ、3と2の人。まだ向山先生に見せに来てない人。…3と書いて2と書いて見せに来てない人、来てごらん。
19.08	C 23	先生、あの、書いてていいですか?
19.09	T 67	うん、書いてていい。
19.45	T 68	このまま。これも後で書くからな。(席に戻す)
19.49	T 69	はいじゃあ、向山先生に見せに来てない人持ってごらん。
19.58	T 70	よし。よし。答え書くのって難しいよな。いいよ。このまま。

20.06	T 71	よし。一番難しい問題を書いたんだな。
20.11	T 72	いい。はい。これも難しいな。いい。じゃ、わかった。
20.25	T 73	それでは、一番最初の人から立って大きい声で読んで、自分の名前を言いなさい。はい。ん
20.32	C 24	はい。 (4秒)
20.36	C 25	せっかく、せっかくなにををひろげた…せっかくなにをさせたのか。O。
20.44	T 74	はい。次。
20.48	C 26	水などくれる人はいますか。S。
20.52	T 75	なるほど。次。

ここでは、言葉に明らかに現れた形でのディスコミュニケーションは現出していない。しかし、C 21において学習者が「えっ？えっ？」と聞き返している部分とその後の画像に見られる表情が問題になる。この学習者は、作った問題を授業者に見せると、T 47およびT 48における指示のようにどの問題かを黒板に書くように指示されるものと考えていたと思われる。しかし、授業者はT 49において「難しいなあ」と言ったあと、8秒間の沈黙をおいて再びT 50において「全部難しいや。」と言い、さらに「よし。この先続けよう。」という指示を出した。学習者はこの場面でこの指示の意味がわからず、C 21のような聞き返しを行ったと思われる。それに対して授業者はT 51において「全部難しいから、こん次やる。」と答え、学習者の背中を押すような形で自席に戻らせている。次の学習者に対してもT 52において「これも難しい。はい。この後続けて。」と同様の指示を出しており、実際に学習者は自席に戻っているから、「板書するには難しい問題ばかりなので、もっと問題を続けて作る作業をせよ。」という指示の内容は伝わったと思われる。しかし、この二人の学習者は映像で確認される限り、怪訝な表情を見せており、十分納得できてはいないように見える。ここに一種のディスコミュニケーションがあったと考えられる。授業者および学習者からの直接情報はないので確認できないが、間主観性を確認するため、大学3年生109名にこの授業ビデオを解説抜きで視聴させ、「問題点を指摘せよ」と指示したところ、この場面を問題点としてあげた学生が17名あり、「学習者がなぜ自分がいけないのか納得していない」という内容をその理由としてあげた。この場面をディスコミュニケーションとして認定し、その実相をさぐることにする。

2. 2. ディスコミュニケーションの内容の分析

ここでは、「雑草のうた」という詩教材についての「問題」を考えさせるという学習が展開されている。T 21の次のような指示によってこの学習過程が開始された。

T 21：今読んだ詩、みんなが先生の代わりにたって国語のテスト問題を作るとしたらば、どんな問題を出すか考えてもらいます。最初は誰でもわかる、誰でもはっきりできる、そういう問題から出してもらいます。例えば向山先生が一つ出しますから、その丸1の下に書きなさい。この詩の題は何ですか。はい書きなさい。

この指示のあと、問いの下に答えを書くという形式の指示をして、例題の答え「雑草のうた」に丸をつけさせ、次のような指示をつないでいる。

T 3 2 : …このように問題を作ります。え、最初簡単で、誰でもわかる問題から作っていきなさい。え、これから、5問作ったら、つまり2 3 4 5 6までいったら向山先生に持ってらっしゃい。いいですか。はいよーい、スタート。…先生方も作ってみて下さい。え、子どもたちの倍10問作ったらばどなたか向山まで持ってきて下さい。子どもの問題と先生方の問題どっちがいいか。

授業者は、易しい問題から難しい問題へ、という学習の展開を想定しており、学習者自身がその方針に従って問題を作ることを期待している。つまり、学習者の問題が1番の「この詩の題は何ですか」から6番に向かって次第に高度な問題として作られ、並べられることを期待しているのである。このことは、その後の授業展開で検討される問題がおおむね易しい問題から難しい問題へと配列されていることにも見て取れる。一方学習者にとっては、難易の差そのものを意識することが難しいため、「難しいから後に」という指示の意味は十分伝わらず、板書をすることなく自席に戻らねばならない理由が明らかにならなかったのだと思われる。だから、「難しいから戻されるのではなく、自分の作った問題がいい問題ではないからだめなのだ」という評価がなされたものと考えた可能性がある。学習者は、自分の学習の成果が十分ではなかったのではないかという疑いを持つと同時に、その原因がわからず、どうすればいいのかわからなくなり、不満ともとまどいともとれる表情を見せたと考えられる。

2. 3. ディスコミュニケーションの原因の分析

このようなディスコミュニケーションが起こった原因としてやや複雑な要因が想定される。この事態を回避するためには、「易しい」「難しい」を判断する基準が明確に示されれば良かったということになるが、その基準をわずかな時間で明確に学習者に教えることの方が實際上困難であろう。また、学習者を席に戻す際に、「もうちょっと易しい問題を作ってみよう。そうしたら今度黒板に書いてもらうときに書いてもらうからね。」という指示を明確に与えれば、学習者はそれほど不満ないしとまどいを感じることはなかったかもしれない。しかし、この場面で起こっていることにはもっといろいろな問題が絡んでおり、そうした対応をとったところで、本質的にこの過程が避けられたとは考えられない。

第一に、すでに引用したT 3 2における発言が一つの導因になっている可能性がある。ここで授業者は「…先生方も作ってみて下さい。え、子どもたちの倍10問作ったらば どなたか向山まで持ってきて下さい。子どもの問題と先生方の問題どっちがいいか。」と述べている。この発言は、研究授業を参観している教師達に向けられたものだが、学習者にも聞こえている。そして、「子どもの問題と先生方の問題どっちがいいか。」という参観者への呼びかけが、「いい問題と悪い問題がある。」「問題はいいか悪いかという観点で評価される。」という形で学習者に受け取られた可能性がある。こうした場合、最初の学習者二人が板書の指示を受けた後、その指示を受けずに自席に戻るよう指示を受けたことで、「自分の作った問題は悪い問題なのだ。」と学習者が判断することは不思議なことではない。授業者はしかも、T 4 7「この問題いいな。」T 4 8「これいいなあ。」という発言をしており、学習者が「いい」「悪い」という評価の軸を想定する可能性を強化している。易しい問題から難しい問題へという学習展開の手順を授業者は想定しており、学習者は、いい問題・悪い問題という評価の基準を想定しているというずれによるディスコミュニケーションがあると考えられるのである。本来学習者に向けて発せられたのではない発言、いわばノイズがこのディスコミュニケーションを助長し、2度にわたる「いい」という評価の発言がそのノイズに関連づけて意味作用を起こしたという過程が考えられる。

第二に、上の問題に関連して、顕在化していないが、授業者側に「いい問題」「悪い問題」について

の二重のコードが存在しているのではないかということが疑われる。すでに見たように授業者は、学習者に作らせ、検討していく問題について、易しいか難しいかということを目準にしている。しかし、一方で、「いい」という言葉を何度か用いている。単純に考えれば「易しい問題」がとりあえず「いい問題」だということになるが、子どもと参観の教師たちの問題を比較しようとする場合の「いい問題」とは「易しい問題」のことであろうか。実際に一緒に参観していた現職教員は問題作りを行っていたが、いわゆる分析批評の観点から典型的にあげられるような問題が「いい問題」であると考え、そのような問題を作成した。授業者の持っている教材観・授業観を想定し、そのような判断が行われたわけである。このように、「いい」「悪い」には客観的な目準が存在せず、そうした判断が行われる文脈と、評価を行う主体にかかわる文脈とに大きく依存するものである。学習者は、参観者ほどにはこうした文脈に関する情報を持っていないし、また、活用すべき能力も欠いている。授業者から「易しい問題がいい問題だ」という情報を提示されても、既に見たように、授業者自身がその文脈を否定する可能性のある情報をもまた提示しているわけであるから、混乱が起きても致し方のない側面もあるのである。授業者自身、「易しい問題から難しい問題へ」という学習の展開過程を想定している限り、「易しい問題がいい問題」という目準をどこまでも維持することは難しい。学習者はそうしたことを先回りして判断したとも解釈することが可能である。授業者は授業の後半、次のような発言をしている。

T 1 9 5 : これ、全部面白い問題なんです。一つ一つゆっくりやりたいんですけど、時間がないので、簡単なやつからいってみましょう。…はい。まず、はい、この詩の作者は誰ですか？はい、書いてごらんください。作者です。

ここでは、「面白い」という新たな目準が現れている。前述の発言と関連づけて捉えれば、「面白い問題がいい問題」という目準になる。この「面白い」とは、「検討に値する」という意味だということにも受け止めることができる。そうだとすれば分析批評的な問題を作った参観者は意図に沿っていることになるし、ある意味で指示に反して難しい問題を作ろうとした学習者も深いところで意図に沿おうとしたということにもなる。また、ここで「時間がないので、簡単なやつからいってみましょう。」という発言がなされているのも気にかかる。「時間があれば難しいものを取り上げる。」という受け止め方を誘発する可能性があるからだ。この発言は「易しい問題から難しい問題へ」という学習の順序に関わって設定されていた「易しい問題がいい問題」という最初のコードが、「検討に値する問題がいい問題」あるいは「検討に値する難しい問題がいい問題」というコードに遷移するポイントであるとも把握できよう。実際に、次のような発言も見られる。

T 2 1 4 : これは高級なんです、一つずつ文の最後に「く」が付くのはなんででしょう。「むんむん草むら つくってく」の「く」なんです。「のびたいほうだい のびていく」の「く」なんです。「きらきらしながら 生きていく」の「く」なんです。これはすごいなあ。

T 2 1 5 : 先生方でこの問題考えた方いらっしゃいますか？これは相当高級ですよ。子どもたちっていうのは素晴らしいもので、たまにホームランを打つんですよ。そのホームランを打ったボールを受けとめてあげられないと見逃しちゃうんですよ。はい。これはまあまたの宿題で、担任の先生に聞いてみましょう。はい、最後です。

ここでは、脚韻の問題に対して、「高級」という言葉で高い評価を与えている。参観者に向かっても「相当高級」「子どもたちっていうのは素晴らしい」「ホームラン」というような言葉で高い評価を示している。ここは、授業時間が終わりにさしかかっており、この問題をとばして次の問題へと行くために、最大級の高い評価を与えて、この問題を提示した学習者に満足を与えてから、次に進もうという授業運営上の戦略が用いられていると見ることができる。しかし、この問題に与えた評価はやはり「高級な問題がいい問題」というコードを指示するものと受け止められるだろう。そうすると、最初の段階で学習者が抱いた疑いはここで遡及的に強化されることになるおそれがある。授業者は、最初学習者を自席に戻す段階では、「易しい問題がいい問題」というコードに拠っていたと考えられるが、結果的にそのコードは放棄されてしまう経過となっている。

このディスコミュニケーションには、授業の初めに繰り返された次のような評価的な発言が、学習者の評価に対する関心を強く喚起する導因となり、関連しているように思われる。

T 1 8 : できた? あ、賢い! 賢い子は速い! はい。よし。そう。速い子は頭がいいんだ。賢い!

T 2 4 : あら速い。さっきから賢いなあ。Oくんなあ。

T 3 1 : Oさん天才もらえた。天才がもらえなかった人。答えがこれ。雑草のうたと答えられた人超天才だ。

第三に、詩教材をどのように解釈するかという戦略の共有化ができていないことが大きな文脈として認められるように思われる。例えば既に引用したT 1 9 5にもあるように、前半の問題検討が終わって、後半の問題検討に移って最初の問題として、「作者は誰か」という問題が取り上げられている。これは、続いて「話者は誰か」という問題を取り上げ、夏目漱石の「吾輩は猫である」を取り上げて、関連づけて指導するためである。話者を考えることは「難しい」ことであり、その指導をする予定があるので、「作者は誰か」という問題が後半まで保留されたと考えられる。しかし、作者と話者を関連づけて考えようというようなことが、この詩を理解するための問題を考える上で(テスト問題は当該の教材文の理解度をはかるためのものだというような認識は学習者にも共有されていよう)の留意事項として学習者に了解されているとは考えられない。学習者にとっては、「話者は誰か」は「難しい問題」だが、「作者は誰か」という問題は、最初に例題として出された「この詩の題は何ですか」と同様の「易しい問題」にすぎない。詩の解釈の大きな枠組みが共有されていなければ、「易しい」「難しい」という観点は問題を分ける基準として機能しえない。それはまさに相対的なものとなる。このことが既に見たようなコードの混乱にも関わっている可能性がある。

4. 結論

学習者が授業者の評価基準に敏感になり、その評価基準をめぐってディスコミュニケーションが現出したと見られる。このことの原因の中心は、授業者自身が二重のコードを持っており、そのコードのズレないし遷移に自覚的でなかったことにあると思われる。また、授業者自身の発言に、学習者の誤解を引き起こす要因が見られた。また、そこにはこの授業が公開されている研究授業であり、参観者に向けた発言がノイズとして学習者に関与した可能性もうかがわれた。また、いわゆる飛び込みの授業である

ため、詩を読むための解釈戦略が共有されておらず、検討したようなディスコミュニケーションを導く大文脈となったことが考えられる。

しかし、このディスコミュニケーションは授業者に明確に意識されたとは考えがたい。学習者もそれほど大きな違和感を覚えたとは思えない。授業後の学習者の感想にも一応の満足が見て取れるし、今後の学習によって、「難易」と「いい悪い」の問題は理解されていくだろうとも考えられる。全体としては所期の目的を達した手際のよい授業であったと考えられるが、学習者の怪訝な表情にかかわる要因を考えることで、授業をとりまく様々なコミュニケーションに関わる要因をいくつか指摘できた。

文学教材を扱う授業の場合、解釈の多様性を認めることが学習者の主体的な学習を重視する場合の共通の前提となるが、それでもある程度の解釈戦略の共有が必要となることが示唆された。このことと、文学教材を扱った授業におけるディスコミュニケーションの諸相についてさらに検討を重ねることが課題である。

付 教材本文

雑草のうた

鶴岡千代子

せっかく 花を さかせても
せっかく 葉っぱを ひろげても
ふりむいていく 人はない
それでも平気さ みんなして
むんむん草むら つくつてく

どんなに のどが かわいても
どんなに ほこりを かぶっても
水など くれる 人はない
それでも平気さ 上むいて
のびたいほうだい のびていく

オオバコ ハコベ ヒメジョオン
ちゃんと 名前が ついてても
よびかけてくる 人はない
それでも平気さ いつだって
きらきらしながら 生きていく

00.00 T 1 こんにちは。

00.01 C 全 こんにちは。

00.02 T 2 KさんとHさん、風邪で休んだけど大丈夫ですか。大丈夫？治った？Hさん風邪で二、三日休んでなかった？

00.11 C 1 休んでない。

00.12 T 3 風邪気味だった？今はどうですか？

00.16 C 2 こほん。

00.17 T 4 大丈夫？T君肩は？

00.19 C 3 痛い。

00.20 T 5 肩って、どこが痛いの？

C 4 えっ？

00.21 T 6 どこが痛いの？

C 5 えっ？

00.22 T 7 どうして痛いの？

00.23 C 6 えっ？

00.24 T 8 どうして痛いの？

C 7 えっ？知らない。

00.26 T 9 知らない？

C 8 えっ？

00.27 T 10 K君はどうですか？

C 9 ***。

00.32 T 11 ***。

00.33 C 10 ***。

00.35 T 12 現状維持？…次！それでは、今配ったプリントをお持ち下さい。…「雑草のうた 鶴岡千代子 せっかく 花を さかしても せっかく 葉っぱを ひろげても ふりむいていく ひとはない それでも平気さ みんなして むんむん草むら つくってく どんなに のどが かわいても どんなに ほこりを かぶっても 水など くれる 人はない それでも平気さ 上むいて のびたいほうだい のびていく オオバコ ハコベ ヒメジョオン ちゃんと 名前が ついてても よびかけてくる ひとはない それでも平気さ いつだって きらきらしながら 生きていく」。それではみんなで読んでみます。さん、はい。

01.23 C 全 「雑草のうた 鶴岡千代子 せっかく 花をさかしても せっかく 葉っぱを ひろげても ふりむいていく ひとはない それでも平気さ みんなして むんむん草むら つくってく どんなに のどが かわいても どんなに ほこりを かぶっても 水など くれる 人はない それでも平気さ 上むいて のびたいほうだい のびていく オオバコ ハコベ ヒメジョオン ちゃんと 名前が ついてても よびかけてくる ひとはない それでも平気さ いつだって きらきらしながら 生きていく」。

02.08 T 13 今度は自分のスピードで読んでもらいますが、全員起立。

02.12 C 全 (全員起立)

02.14 T 14 S君、S君からこちらはこちらに向きなさい。こちらに向きなさい。そうそうそうそうそう、それから…Iさんからこちら側はこちらを向きなさい。残りは後ろを向きなさい。今度はみんなと合わせる必要はありません。速い人は速く、遅い人は遅い。自分が2回読んだら、今のように席に座んなさい。はいスタート！

02.35 C 全 「雑草のうた 鶴岡千代子 せっかく 花をさかしても せっかく 葉っぱを ひろげても ふりむいていく ひとはない それでも平気さ みんなして むんむん草むら つくってく どんなに のどが かわいても どんなに ほこりを かぶっても 水など くれる 人はない それでも平気さ 上むいて のびたいほうだい のびていく オオバコ ハコベ ヒメジョオン ちゃんと 名前が ついてても よびかけてくる ひとはない それでも平気さ いつだって きらきらしながら 生きていく」。「雑草のうた 鶴岡千代子 せっかく 花

をさかせても せっかく 葉っぱを ひろげても ふりむいていく ひとはない それでも平気さ みんなして むんむん草むら つくってく どんなに のどが かわいても どんなに ほこりを かぶっても 水などくれる 人はない それでも平気さ 上むいて のびたい ほうだい のびていく オオバコ ハコベ ヒメジョオン ちゃんと 名前が ついてても よびかけてくる ひとはない それでも平気さ いつだって きらきらしながら 生きていく」。

- 02.59 T 15 //三年生くらいのスピードだ。もっと速く読みなさい。
- 03.42 T 16 はい、ノートを開いて、「雑草のうた」、それから「鶴岡千代子」と書いて、今日の日付を書きなさい。ノートに、題と、作者の名前と日付を書きなさい。
- 04.01 T 17 書いたら書きましたって言いなさい。
- 04.43 T 18 できた？あ、賢い！賢い子は速い！はい。よし。そう。速い子は頭がいいんだ。賢い！
- 04.54 C 11 できました。//
- T 19 //よし。はい。まだ書いている子がいる。遅い。六年生だろ。…はい。でも早
けやりゃいいってもんじゃない。きれいか？
- 05.05 (会場笑い声)
- 05.08 T 20 大丈夫か？はい。それではその横んところに上に丸1と書きなさい。
(7秒)
- 05.20 T 21 今読んだ詩、みんなが先生の代わりにたって国語のテスト問題を作るとしたらば、どんな問題を出すんか、考えてもらいます。最初は誰でもわかる、誰でもはつきりできる、そういう問題から出してもらいます。例えば向山先生が一つ出しますから、その丸1の下に書きなさい。この詩の題は何ですか。はい書きなさい。
(5秒)
- 05.47 T 22 はい。書いたら書きましたと言いなさい。
(3秒)
- 05.52 T 23 この詩の題は何ですか。
(2秒)
- 05.55 T 24 あら速い。さっきから賢いなあ。O君なあ。はい。はい。よし。Y君ががんばってる。はい。はいよし。
- 06.10 C 12 書きました。
- 06.11 T 25 はい。この詩の題は何ですか。凄い難しい問題だ。答えをその下に書きなさい。…はい答え。
(11秒)
- 06.30 C 13 書きました。
- 06.31 T 26 は一ん。答えを書くんです。この下に。今書いた、問題の下に書く。消しゴムはできるだけ使わない。
- 06.40 C 14 できました。
- 06.42 T 27 Kさん、使わないようにしような。消しゴムな。さっきから3回目だ。
- 06.49 T 28 できました？ よし。Kさん、何のうただ？
- 06.54 C 15 「雑草のうた」。
- 06.55 T 29 大きな声で！
- 06.56 C 16 「雑草のうた」です。
- 06.57 T 30 すごい！天才！
- 06.58 C 全 (笑)
- 06.59 T 31 Oさん天才もらえた。天才がもらえなかった人。答えがこれ。雑草のうたと答えられた人超天才だ。はい丸をしなさい。赤鉛筆を出して。
(6秒)
- 07.14 T 32 はい。丸をさっとつけなさい。あつてたでしょ。「雑草のうた」っていう答えがあつてたなら、はい赤鉛筆で丸をしなさい。赤鉛筆持ってない人いるの？…これは赤ボールペンと言います。これは黒鉛筆です。赤鉛筆はないんですか？ここではみんな赤鉛筆使ってるの？じゃ赤ボールペン。…はい。じゃ、丸をして。丸をしましたか？…このように問題を作ります。え、最

初簡単で、誰でもわかる問題から作っていきなさい。え、これから、5問作ったら、つまり23456までいったら向山先生に持ってらっしゃい。いいですか。はいよーい、スタート。…先生方も作ってみて下さい。え、子どもたちの倍10問作ったらぼなたか向山のところに持ってきて下さい。子どもの問題と先生方の問題とどっちがいいか。

- 08.06 (会場の笑い声)
- 08.28 (黒板に項目分けの小さい○を記入)
- 08.57 T33 自分の答えも書いてね。…自分の答えも書いてね。
- 09.01 C17 答えも？
(6秒)
- 09.08 T34 ちょっと念のため、6年生起立。…はいみなさん起立。起立。起立しなさい。早く立ちなさい。立ってごらんください。
- C全 (起立)
- 09.17 T35 一問問題作った人は座んなさい。書いてないのは立ったままでいなさい。
(2分8秒)
- 11.34 T36 5つ書いたらもってらっしゃい。
(39秒)
- 12.15 T37 Mさんもうできそうでしょ。できたか？
- 12.18 C18 まだあとちょい。
- 12.19 T38 あとちょいか。よし。
- 12.24 C19 答えも書くの？
- 12.25 T39 うん、なくてもいいよ。
- 12.26 C20 なくてもいいの？//問題だけで。
- 12.27 T40 //いいよ、いいよいいよ。許してやるよ。
- 12.31 T41 ひいきしてやるよ。
(6秒)
- 12.38 T42 できた？ これ4つだな。5だから。6までだからな。
(2秒)
- 12.43 T43 さっきの問題は向山先生が出したんだからな。6まで書いてこいつつったんだな。いい問題出さなくたっていいんだよ。思いつくままに書いていけば。
(8秒)
- 13.08 T44 さあ、誰が最初に来るかな。楽しみだな。
(6秒)
- 13.16 T45 またO君かな。
(1分23秒)
- 14.40 T46 O君、O、あ、終わったかな。…おいで。…おいで。ノートを持ってらっしゃい。
(以下、小声で一对一のやりとり)
- 15.09 T47 この問題いいな。どこでもいいから後ろの黒板に書いて。ちこちこちこち。問題出して、答えは出さないで。問題ここまで書いて。黒板に。
- 15.29 T48 これいいなあ。どこでもいいから空いているところに書いて。書きやすいところに書いて。問題ここまで書く。
- 15.45 T49 難しいなあ。
(8秒)
- 15.52 T50 全部難しいや。よし。この先続けよう。
- 15.57 C21 えっ？えっ？
- 15.58 T51 全部難しいから、こん次やる。(席に戻す)
- 16.04 T52 これも難しい。はい。この後続けて。(席に戻す)
- 16.14 T53 次。これ書いて。隣じゃなくていい。こっちの方でもいいよ。間が空いている方で。はい。
- 16.27 T54 うん。じゃ、書いて。どこでもいい。はい。これな。
- 16.41 T55 はい。どこでもいいから書いて。はい。よし。いいぞう。
- 16.52 T56 はい。これ。

- 16.57 T 57 じゃ問題書いたら、その下に自分の名前を書いて。
- 17.16 T 58 うん、難しいな。
- 17.25 T 59 これにしようかな。どこでもいいから黒板書いて。どこでもいい。
- 17.31 T 60 はい、途中まででもいいから、4つ書いた人持っておいで。まだ持ってきてない人。まず書いて。黒板に書いた人はまた席につくんだぞ。4つ書いた人持っておいで。
- 18.01 T 61 うん。じゃ、これ書いて。
- 18.07 C 22 先生名前書く。
- 18.08 T 62 名前下を書くの。
- 18.16 T 63 はい。じゃ、これな。ここからここまで書いて。どこでもいいから。はい。
- 18.29 T 64 これはいい。わかりやすい。どこでもいいから書いて。
- 18.48 T 65 どこでもいいから書いて。
- 19.00 T 66 はい。じゃ、3と2の人。まだ向山先生に見せに来てない人。…3と書いて2と書いて見せに来てない人、来てごらん。
- 19.08 C 23 先生、あの、書いてていいですか？
- 19.09 T 67 うん、書いてていい。
- 19.45 T 68 このまま。これも後で書くからな。(席に戻す)
- 19.49 T 69 はいじゃあ、向山先生に見せに来てない人持ってごらん。
- 19.58 T 70 よし。よし。答え書くのって難しいよな。いいよ。このまま。
- 20.06 T 71 よし。一番難しい問題を書いたんだな。
- 20.11 T 72 いい。はい。これも難しいな。いい。じゃ、わかった。
- 20.25 T 73 それでは、一番最初の人から立って大きい声で読んで、自分の名前を言いなさい。はい。ん
- 20.32 C 24 はい。
(4秒)
- 20.36 C 25 せっかく、せっかくなにををひろげた…せっかくなにをさかせたのか。O。
- 20.44 T 74 はい。次。
- 20.48 C 26 水などをくれる人はいますか。S。
- 20.52 T 75 なるほど。次。
- 20.55 C 27 「それでも平気さ みんなして」の「みんな」は誰のことか。
- 20.58 T 76 なるほど。次。
- 21.01 C 28 この詩の中にそれでも平気さは何回あるか。H。
- 21.05 T 77 なるほど。
- 21.08 C 29 「水など くれる 人はない」とはどういうことですか。*(自分の氏名)。
- 21.15 T 78 言われなくても立って。
- 21.17 C 30 はい。これは何についての詩ですか。K。
- 21.27 C 31 はい。この植物は誰かが育てていますか。//S。
- 21.31 T 79 //うん。
- 21.32 T 80 うん。
- 21.34 C 32 雑草とは何でしょう。//K。
- 21.35 T 81 //うん。
- 21.38 C 33 水をくれ、くれる人がいないのになぜ平気なのでしょう。O(氏)//T(名)。
- 21.42 T 82 //うん。
- 21.44 C 34 何個の段落に分かれているでしょう//。N。
- 21.46 T 83 //なるほど。
- 21.48 C 35 各段落に必ず出てくる言葉は何でしょう。O。
- 21.53 C 36 この詩に出てくる植物は何でしょう。Y。
- 21.57 T 84 なるほど。よし。それでは丸2ということを書いて、どっかに。新しい問いに答えてあげてもらう。
(3秒)
- 22.08 T 85 N君が段落と言いましたけれど、これは詩ですから連と言います。
(4秒)

- (黒板に「連」を板書する)
- 22.17 T 86 一連二連三連という使い方をします。そこで丸2の問題です。はい。この詩はいくつの連で分かれてますか。数字だけを書きなさい。はい、できたらできましたと言う。こんな簡単な問題はない。幼稚園生でもわかる。いくつの連ですか。まとめりですか。
(3秒)
- 22.39 T 87 じゃ答えてもらおう。K君。
- 22.41 C 37 はい。
- 22.43 T 88 いくつ？
- 22.45 C 38 3。
- T 89 3！3で書けた人。
- 22.47 C (挙手)
- T 90 おおっ。みんなできてんじゃん。よし。天才の集団だ。はい。3連と答えるんだな。…
(3秒)
- 22.56 T 91 3連に分かれる。次。この詩に出てくる植物は何でしょう。…はい書いてもらいなさいこの詩に出てくる植物。…問題は書かなくてもいいぞ。答えだけでいい。…はい。
(5秒)
- 23.17 T 92 言いたい、言いたい、言いたい、Tさん。
- 23.22 C 39 オオバコ、ハコベ、ヒメジオン。
- 23.25 T 93 ヒメジオン。はい。…もう一回言いなさい。自分で。
- 23.29 C 40 オオバコ、ハコベ、ヒメジオン。
- 23.31 T 94 はい、それと同じだった人！全く同じ。
- 23.33 C (挙手)
- 23.34 T 95 ちょびっと違うって人。
- 23.35 C (手を下げる)
- 23.37 T 96 ちょびっと違う。いない。いない。いた？いない。もう一回聞く。今と全く同じな人、手を挙げて下さい。
- 23.47 C (挙手)
- 23.49 T 97 違うって人。
- 23.50 C (手を下げる)
- 23.51 T 98 違うところがある。書けてるけど違うところがある。K君。はい。
- 23.56 C 41 雑草。
- 23.58 T 99 雑草と。いいんだよ、違ってたって何だって。…えー、今言った3つ、オオバコ、ハコベ、ヒメジオンと雑草と、そう書いた人。そう思った人。
(3秒)
- 24.12 T 100 2人、3人？…この詩に出てくる植物は何ですかですよ。植物は何ですかですからK君が言ったのは正しいですね。雑草も植物ですから。…この詩に出てくる植物の名前は何かと聞いたんならば、さっき言ったように正しいけれども。ですから問題の作り方がすごく違いますね。…はい雑草も入れておきなさい。
(9秒)
- 24.46 T 101 ついでに聞いておきます。ここには3つ使われています。オオバコ、ハコメ…ハコベ、ヒメジオン。この中で言っている雑草というのはこの3つのことだけですか？それとも他のことも含まれるのですか？
(3秒)
- 25.03 T 102 誰か。どう思いますか？どうだ。Iさんどう思いますか？
(3秒)
- 25.13 T 103 この中に出てくる雑草というのは3つ名前が出てきますね。オオバコとハコベとヒメジオン、って草の名前。この3つだけのことを言っているのかしら？あなたはどう思います？他のこともいっていると思う？それともこの3つだけと言っていると思う？
- 25.29 C 42 他のこと。
- 25.30 T 104 他のことを言っている？じゃあこの3つは何だと思う？

- 25.32 C 43 たとえ。
- 25.33 T 105 たとえていると思う。それじゃあK君はどう思う？この3つだけのことを言っていると思う？それとも他のことも言っていると思う？
- 25.42 C 44 えーと、3つ。
- 25.45 T 106 3つのことだけを。他のことは入らない。入らない。じゃあ、えーと、Iさんと同じ、これは3つのことをたどえて他のことも言っているんだと思う人、手を挙げてください。
- 25.57 C (挙手多数)
- 25.58 T 107 えー、R (Kの名) くんと同じに、えーと、3つのことだけの話なんだという人。
- 26.04 C (挙手少数)
- 26.05 T 108 これは他のことをたどえて言っているんですね。3つが代表しているんです。ですから3つの草の話ではなくて、雑草のことなんですね。はい。…次。…さっき言いましたように、段落ではなくて連です。…O君って言うのかなあ？とてもいい。…必ず出てくる言葉ならいいです、必ず出てくる、繰り返す。はいそこに線を引いてごらんください …繰り返してる。
- 26.43 C 45 終わりました。
- 26.44 T 109 終わりましたか。遅い！…じゃ、名誉のためにR (Kの名) 君な。さっきちょっと違っちゃったけどな。はい。
- 26.50 C 46 はい。
- T 110 何ですか？
- 26.51 C 47 「それでも平気さ」。
- 26.53 T 111 「それでも平気さ」「それでも平気さ」「それでも平気さ」と書いてある。他に。…まだある。はい。H君。
- 27.01 C 48 「人はない」。
- 27.03 T 112 「人はない」もあるな。「人はない」「人はない」「人はない」。「人はない それでも平気さ」。「人はない それでも平気さ」。そう、「人はない それでも平気さ」。はい。このように繰り返し出てくるのをリフレインと言いますが、繰り返して言います。覚えましょう。
(5秒)
(「リフレイン」と板書する)
- 27.26 T 113 リフレイン。リフレイン。一緒につきます。さん、はい。
- 27.30 C 全 リフレイン。
- 27.31 T 114 リフレイン、もう一回。さん、はい。
- 27.33 C 全 リフレイン。
- 27.34 T 115 同じ言葉が繰り返し出てくるという、そう言ってる。…今の問題はどの連見ても出てくるんです。そうじゃなくて、えー、第一連で、繰り返されてるリフレインは他にあります。第一連。なんていうのがありますか。さあ見てごらんください。第一連で、繰り返して出るのがありますねえ。えー、Eさん。
- 27.59 C 49 はい。…「せっかく」。
- 28:02 T 116 そうだなあ。「せっかく」「せっかく」と両方とも出てきます。じゃあ、第二連でもあります。
(4秒)
- 28.11 T 117 はい、Nさん。はい。
- 28.15 C 50 「どんなにも」。
- 28.16 T 118 そうだなあ。「どんなにも」「どんなにも」。どれもリフレインです。
(6秒)
- 28.26 T 119 えーと、次も出てきます。O君が言いました、せっかく何をさかせたのかとありますから、せっかく、何をさかせてるんですか。
(5秒)
- 28.41 T 120 O君の問題です。これもとっても簡単な問題ですから。せっかく何をさかせるんだろう？小学校1年生くらいの問題なのかな。はい、S君。
- 28.53 C 51 はい。花。
- 28.54 T 121 花だな。どこに書いてあるそれは。

- 28.59 C 52 一行目。
- 29.00 T 122 一行目読んでごらん、大きな声で。
- 29.02 C 53 「せっかく花をさかせても」。
- 29.04 T 123 ねえ、「せっかく花を咲かせても」と書いてあるんだから、せっかく咲かせているのは何ですか。花ですね。はい。水などくれる人はいますか。Sくん。はい。いる、いないって書いて。…どちらですか？…水などくれる人はいますか。
- 29.21 T 124 はい。S君。言ってごらん。
- 29.25 C 54 はい？
- T 125 いるかいな。はい。
- 29.26 C 55 いない。
- 29.27 T 126 どこに書いてある？
- 29.30 C 56 二連目の…。
- 29.31 T 127 うん、何行目？
- 29.33 C 57 3//、3行目。
- 29.34 T 128 //3行目。読んでごらん。
- 29.35 C 58 「水など くれる 人はない」。
- 29.37 T 129 おーし。「水など くれる 人はない」。その通りだな。…次。…「それでも平気さ みんなして」の「みんな」というのは誰のことだと思う？はい。ノートに書いてごらん。「みんな」というのは誰のことだと思う？
(15秒)
- 30.07 T 130 「みんな」とは誰のことだと思う？
(2秒)
- 30.11 T 131 これも多分2通りになるはずなんだな…。はいそれではEさん。
- 30.20 C : はい。雑草。
- 30.24 T 132 大きな声で言いなさい。
- 30.25 C 59 雑草。
- 30.27 T 133 はい。I君。
- 30.29 C 60 雑草。
- 30.30 T 134 はい。雑草と、そうじゃない答えの人、当然あったですね。これ違う答えも書けた人、いると思いますか？書いてない。書いてない。書いてない。なんて書いた？なんて書いた？
- 30.44 C 61 雑草。
- 30.46 T 135 あれ、雑草じゃない人いませんか？手挙げて。手を挙げて。
- 30.51 C (挙手数人)
- 30.52 T 136 いますよね。これ、みんなが雑草だけだったら、このクラスのレベル、相当低いんですよ。
(会場笑い声)
- 30.57 C 62 人。
- 30.58 T 137 え？人。もう一人は？
- 31.00 C 63 人。
- 31.01 T 138 ねえ。
- 31.04 C 64 オオバコ、ハコベ//ヒメジョオン。
- 31.06 T 139 //ああなるほど。オオバコ、ハコベ、みんなこれ雑草ということにしよう。人。人と同じように書いたのは？人だと、これは。「それでも平気さ みんなして」の「みんな」というのは雑草なのだろうか。人なのだろうか。あるいは両方なのだろうかというのが出てきますが、これはちょっと残しておきます。どちらも正解です。間違いじゃありません。えー、この中に「それでも平気さ」は何回あるか。さっきと同じだな、問題。「水などくれる 人はない」ということはどういうことですか。S。Yさん、どういうことですか。
(2秒)
- 31.46 T 140 Yさんどこいった、どういうことですか。
(9秒)

- 31.57 T 141 それではこういう風にしましょう。「水など くれる 人はない」と同じように、な、同じような意味で使われている、行が、二つあります。その行を線を引きなさい。「水など くれる 人はない」と同じような意味で使われている行が二つあります。そこに線を引きなさい。できました？はい。「水など くれる 人はない」と同じような意で使われている。はい。一つ目いこ！。はい。
- 32.31 C 65 「ふりむいていく 人はない」。
- 32.33 T 142 そうだな。一つはそれだなあ。もう一つは何だ？
- 32.37 C 66 「よびかけてくる 人はない」。
- 32.38 T 143 そうだ。みんな天才の集団だ、ここはなあ。はい。「水など くれる 人はない」。同じように「ふりむいていく 人はない」。「よびかけてくる 人はない」。そうだ。そのように線を引いた人手を挙げてごらん。そう。ああすごい！みんな振り向いてくれない。無視されているんだなあ。…はい。この植物は誰かが育てていますか。
- 33.00 C 67 いません。
- 33.01 T 144 えっ？
- 33.02 C 68 世話して…。
- 33.03 T 145 え、誰かが世話しているんですか？
- 33.04 C 69 世話してない。
- 33.05 T 146 世話してない。世話してないな。はい。雑草とは何でしょうか？雑草とは何ですか？
(4秒)
- 33.16 T 147 S君。
- 33.20 C 70 わかりません。
- 33.21 T 148 思ったことを言えばいいんだよ。
- 33.23 C 71 草。
- 33.24 T 149 草ね。そう。雑草とは草のことだ。はい。雑草とは何ですか。
- 33.30 C 72 わかりません。
- 33.32 T 150 わかりません。0点。もう一回。雑草とは何ですか。
- 33.34 C 73 草。
- 33.35 T 151 はい。50点。雑草とは何ですか。
- 33.37 C 74 草。
- 33.38 T 152 50点。雑草とは何ですか。
- 33.40 C 75 野生の草。
- 33.41 T 153 95点。雑草とは何ですか。
- 33.44 C 76 オオバコ。
- 33.45 T 154 オオバコ、オオバコ、30点。雑草とは何ですか。
- 33.50 C 77 雑草。
- 33.51 T 155 え、雑草とは雑草！50点。はい。雑草とは何ですか。
- 33.55 C 78 そこら辺に、あ、外のそこら辺に生えている草。
- 33.59 T 156 そこら辺に生えている草。100点。雑草とは何ですか。
- 34.02 C 79 草。
- 34.03 T 157 草。50点。雑草とは…50点じゃなかった。さっき50点じゃなかった。なんて言っただけ。いい加減だなあ。雑草とは何ですか。
- 34.13 C 80 草。
- 34.14 T 158 草。雑草とは何ですか。
- 34.16 C 81 どこにでもある珍しくない草。
- 34.18 T 159 あ、すごい、120点。雑草とは何ですか。
- 34.21 C 82 植物。
- 34.22 T 160 植物。35点。…草じゃない植物もあるしな。木だってあるしな。***だってあるしな。はい。それでは、今やった問題で、次の問題にちよつと試してみよう。…それではさっき持ってきた人もう一回先生に見せに来て下さい。今度は違った問題を書いてみます。はい、持ってきて。はい。なるべく早く持ってこい。もう一回出てきた一いという

- 人は出ておいで。はい。
- 35.00 T 161 みんな持っといで、さっきのやつ。
- 35.05 T 162 じゃ、これからいこう。はい。ごく簡単に。これ消してね。一番最初のところ。
- 35.09 C 83 一番最初のところ消して。
- 35.10 T 163 うん、自分だよ、自分のところ。
- 35.11 C 84 えっ？
- T 164 自分のところだけを消して。
- 35.12 C 85 自分の//ところ？
- T 165 //書いてない？じゃ消しちゃおう。消した方が速いや。はい。
- 35.20 T 166 はい書いてー。
- 35.22 T 167 じゃ、一番後ろの列持っていらっしゃい。はい。
(以下、小声で一对一のやりとり)
- 35.29 T 168 うふん(咳払い)。速く出てくる。
- 35.42 T 169 この4つ目の***こと書いてみて。これ。***。
- 35.57 T 170 どんどん消してねー。はい。
- 36.04 T 171 これ***。(児童を席に戻す)
- 36.10 T 172 やってない。これ書いて。
- 36.18 T 173 書いて。
- 36.39 T 174 ***。よし。(児童を席に戻す)
- 36.46 T 175 ***。
- 36.51 T 176 はいじゃあ、2列目の人もっといで。
- 37.29 T 177 ***。
- 37.47 T 178 オッケイ、はい。(児童を席に戻す)
- 38.01 T 179 これ書いて。
- 38.16 T 180 これ書いて。
- 38.19 T 181 はい1列目え持ってきて下さい。
- 38.30 T 182 はい。よーし***。(児童を席に戻す)
- 38.33 T 183 はい。よーし***。(児童を席に戻す)
- 38.39 T 184 オッケイ。(児童を席に戻す)
- 38.51 T 185 ***。オッケイ。(児童を席に戻す)
- 39.03 T 186 はい、***。(児童を席に戻す)
- 39.06 T 187 オッケイ。***。(児童を席に戻す)
- 39.20 T 188 さあ、さっきと同じようにそれでは立って問題を読んで下さい。…大きい声で。
- 39.26 C 86 作者は誰でしょう。
- 39.28 T 189 名前は？
- 39.29 C 87 K。
- T 190 はい。
- 39.34 T 191 次の人？はい。
- 39.37 C 88 この詩の主人公は何でしょう。O。
- 39.42 C 89 何をきらきらさせるのか。H。
- 39.47 C 90 なん、なぜ段違いで書いてあるのか。M。
- 39.52 C 91 この詩の話者は誰でしょう。H。
- 39.55 T 192 はい。
- 39.56 C 92 一つずつの文の最後に「く」がつくのはどうしてですか。*(自分の氏名)。
- 39.59 T 193 はい。
- 40.09 C 93 「きらきらしながら生きていく」の「きらきら」はなんでしょう。//U。
- 40.12 T 194 //はい。
- 40.15 C 94 なぜ雑草を見ないのでしょ。
- 40.21 C 95 詩の最後に「生きていく」と書いてありますが、どうやって生きていくのでしょ。
- 40.27 T 195 これ、全部面白い問題なんですよ。一つ一つゆっくりやりたいんですけど、時間が無いの

- で、簡単なやつからいってみましょう。…はい。まず、はい、この詩の作者は誰ですか？はい、書いてごらん下さい。作者です。
(5秒)
- 40.47 T 196 この詩の作者は誰ですか。
(13秒)
- 41.01 T 197 はい、Sさん。
- 41.03 C 96 鶴岡千//代子。
- 41.04 T 198 //大きな声で。
- 41.05 C 97 鶴岡千代子。
- 41.06 T 199 鶴岡あ？
- 41.07 C 98 千代子。
- 41.08 T 200 はい、鶴岡千代子。そう書いた人？
- 41.10 C (挙手)
- T 201 ああ、すごい。はい。必ず100点。…鶴岡千代子なあ。出たなあ。次。H君の番。H君の問題だ。この詩の話者は誰ですか？はい。話者は誰ですか。
(18秒)
- 41.40 T 202 はい。話者は誰ですか？O君。
- 41.42 C 99 はい。雑草です。
- 41.44 T 203 はい。雑草。雑草書けた人。
- 41.46 C (挙手)
- 41.47 T 204 はい。これ雑草ですね。作者と話者は違いますね。みんな知っているようですから。『吾輩は猫である』という夏目漱石の作品があります。「吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生まれたか」と見当もつかぬ」という作品ですが、この『吾輩は猫である』の作者は誰ですか？
- 42.09 C 100 夏目漱石。
- 42.10 T 205 おっきい声で。
- 42.11 C 101 夏目漱石。
- T 206 夏目漱石ですね。話者は誰ですか？
- 42.14 C 102 猫。
- 42.15 T 207 猫ですね。作者と話者は違いますねー。それを分けることは大切ですね。はい。この詩の主人公は誰ですか？…主人公とは言いませんけども、これで言うときっと話者のことでしょう。ですから雑草でいいでしょうね。…次。なぜ段違いで書いているのですか？これ一段違っていますね、最初と最後に。…誰かいない？これ言いたい人はいませんかどうして段違いなんだろう。…最初の3行と後ろの2行とは違うんだな。
(4秒)
- 42.55 T 208 じゃこれだけは言ってもらおうかな。言いますか。N君。言ってごらん。思ったことでいいんだから。
- 43.01 C 103 わかりません。
- 43.02 T 209 わかりませんか。はい。お隣のHさんどうですか。
- 43.08 C 104 わかりません。
- T 210 わかりませんか？どなたかはいませんか。じゃIさんはどうですか。
- 43.16 C 105 わかりません。
- 43.17 T 211 わかりませんか。わからないですか？最初の3行と後ろの2行。
(3秒)
- 43.23 T 212 読んでみますよ。「せっかく 花を さかせても せっかく 葉っぱを ひろげても ふりむいていく 人はない」。そこまで。それから、三字下がって、「それでも平気さ みんなして むんむん草むら つくってく」。
(3秒)
- 43.40 T 213 前の三行はこんなひどいことされてる、こんな無視されてるということ。後ろの方は、でも自分たちはこうやって生きてくってということ表わしているんですね。意味が違うから変えて

- るんですねえ。
(3秒)
- 43.51 T 214 これは高級なのですが、一つずつ文の最後に「く」が付くのはなんででしょう。「むんむん草むら つくってく」の「く」なんですよ。「のびたいほうだい のびていく」の「く」なんですよ。「きらきらしながら 生きていく」の「く」なんですよ。これはすごいなあ。
(4秒)
- 44.15 T 215 先生方でこの問題考えた方いらっしゃいますかね？これは相当高級ですよええ。子どもたちってのは素晴らしいもんで、たまにホームランを打つんですよ。そのホームランを打ったボールを受けとめてあげられないと見逃しちゃうんですねえ。はい。これはまあまたの宿題で、担任の先生に聞いてみましょう。はい、最後です。「きらきらしながら 生きていく」。後ろの方も、詩の最後に「生きていく」とありますが、どうやって生きていくのでしょうか。これはきらきらしていきだなあ。さ、「きらきらしながら 生きていく」というのはどういう意味でしょう？
- 44.59 C 106 ***。
- 45.00 T 216 うん、どんなこと？…「きらきらしながら 生きていく」。「きらきらしながら」、じゃR君から。
- 45.08 C 107 はい。
T 217 はい。
- 45.10 C 108 太陽の光。
- 45.13 T 218 太陽の光。きらきらきらきら光ります、という意味だ。はい。Kくん。
- 45.22 C 109 元気にのびのびと//生きていく。
- 45.23 T 219 //元気にのびのびと生きていくんだ。大きく二つある。体がきらきらきらきら光っている だという意味なのか。それとも心の中が元気よく、そういう風に生きていくという意味 なのか、このきらきらはどちらだろう？ちょっと読んでみるから考えてみよう、最後 んとこ。三連です。「オオバコ ハコベ ヒメジヨオン ちゃんと 名前が ついてても よびかけてくる 人はない それでも平気さ いつだって きらきらしながら 生きていく」。これは、心が強く生きていくというのかそれとも太陽の光がきらきらと光りながらなのだろうか。太陽の光を浴びてだと思ふ人手を挙げてごらん。
- 46.01 C (挙手少数)
- 46.03 T 220 心強くだと思ふ人手を挙げてごらん。
C (挙手多数)
- 46.06 T 221 ここはきっと心強くなんですねえ。ここはねえ。きらきらじゃなくてねえ。ここで次です。これは、雑草のことを歌っているんですか本当は。
(7秒)
- 46.23 T 222 こういうお話を知っていますか。アメリカの初代大統領ワシントン。小さいときに、間違ってお父さんが大事にしている桜の木を切ってしまいました。桜の木を切ってしまったんです。小さいワシントンはお父さんに謝りました。ごめんなさい。このお話は世界中の人が知っているほど有名です。このお話で言いたいことは、桜の木を切ってはいけない、ですか？そう思う？そう思う？何だと思う？
- 46.57 C 110 えっと。はい。ちゃんと、え、うんと、悪いことをしたら、あや、謝る。
- 47.02 T 223 そうだな。悪いことをしたら謝る。だからお話の中には今みたいに事件例を使って何を言いたいのかということか、ですから、これはワシントンが桜の木を切ったこと、そしてそのことを使って言いたいこと、主題といいます、主題は悪いことをしたら、ちゃんとする。そういうふうになると、「雑草のうた」、使ってるのは雑草のことなんだけども、本当に言いたいことは何なのか？なんだと思いますか？ノートに書いてごらなさい
(机間巡視 43秒)
- 48.14 T 224 雑草のことを使って、みんなが強く生きていくことが書いてあるな。これと似たような詩の歌を何か知りませんか？誰か。これと同じような意味を歌っている歌。
(5秒)
- 48.32 T 225 元気に生きてくという歌。知りませんか。知らない？

- 48.38 C 111 知らない。
- 48.39 T 226 知っている人いない？うん、うん、うん。何？何だ？知りませんか？これと同じようにみんなが知っている歌、誰でも歌う歌、子供らが知っている歌、今まで十回ぐらい歌ったことがある歌。知らない？…知らない？…何だっけ？
- 49.05 C 112 えっ。
T 227 何だっけ？あれ。
- 49.06 C 113 ***。
- 49.07 T 228 うん。
- 49.08 C 114 ***。
T 229 歌い出し何だっけ？
- 49.10 C 115 うんと、僕らはみんな生きている…。
- 49.12 T 230 僕らはみんな生きている。手のひらを太陽に。知っている人。
C (挙手)
- 49.18 T 231 そうですか。先生方知っている人。そっくりなので、声を出して、声を出していただいて歌ってもらいましょう。手のひらを太陽に。子どもたち、さあ起立して。それ同じなんだな、***。
- 49.28 C 全 (起立)
- 49.30 T 232 回れえ右！
(2秒)
- 49.33 T 233 はいちょっと、みんなの合唱の力どのぐらいか。大きな声で歌うんだぞ。先生方も歌って下さい。手のひらを太陽に。
- 49.40 C 116 太陽になんて俺わからん。
- 49.42 T 234 はい。出だしは何だっけ？…僕らはみんなですね。さん、はい！
- 49.47 C 全 (♪) 僕らは//みんな…
- 49.48 T 235 //ちょっと出だしが、出だしがちょっとややこしい。さん、はい！
- 49.53 C 全 (♪) 僕らはみんな生きている…(続く)
T 236 (児童が歌っている間、参観している一人の先生にマイクを向け、歌を響かせる)
- 50.41 T 237 ご協力ありがとうございます。はいこちらを向いてー。それでは***。はい、今日の勉強の感想をばつと一行書きなさい、今。
- 51.09 T 238 そんなに長く書かなくていいぞ。それじゃみんなに聞いてみような。はいどうぞ。
- 51.13 C 117 楽しかったです。
- 51.14 T 239 大きい声で。
C 118 楽しかったです。
- 51.15 T 240 はい。
- 51.17 C 119 緊張します。
T 241 はい。
- 51.18 C 120 緊張したけど、楽しかったです。
- 51.19 T 242 はい。
- 51.20 C 121 楽しかったです。
- 51.19 T 243 はい。
- 51.22 C 122 面白かったです。
T 244 はい。
- 51.23 C 123 今日は***。
- 51.24 T 245 はい。
- 51.26 C 124 難しかったけど、楽しかったです。
- 51.27 T 246 はい。
- 51.30 C 125 面白かったです。
- 51.31 T 247 はい。
- 51.34 C 126 難しかったです。
- 51.35 T 248 はい。

51.36	C 127	緊張して、まあ、緊張しました。
51.37	T 249	はい。
51.39	C 128	楽しかったです。
51.50	T 250	はい。
51.41	C 129	もう一回やりたい。
51.42	T 251	あ、もう一回ですか。
51.44	C 130	とても愉快で楽しかったです。
51.45	T 252	はい。
51.48	C 131	楽しかったです。
51.49	C 132	勉強になった。
51.53	C 133	緊張したけど楽しかったです。
51.54	T 253	はい。
51.55	C 134	難しかった。
51.56	C 135	楽しかったです。
51.58	C 136	楽しかったです。
51.59	T 254	じゃあこれで終わりまーす。
52.00		(拍手)

凡例

- 1 教師・学習者の発言・行動の記録は、教壇から見て左方に位置した一台のVTRによる。
- 2 学習者名は氏名のイニシャルとした。
- 3 句読点は、発音上のプレスおよび強弱により、判断して付けた。
- 4 「 」は、教材および配布資料の文面を読み上げた部分であることを示す。
- 5 ()は、空間の時間、ビデオ記録から観察された動作、笑い等を示す。
- 6 一秒以内の沈黙は……で示す。沈黙の時間はVTRのタイムカウンターによって計測している。
- 7 // は、直後に書かれた発言が、該当個所で重ねて発せられていることを示す。
- 8 ?は、上昇のイントネーションであることを示す。
- 9 !は、強調であることを示す。
- 10 ***は不明個所を示す。

このトランスクリプトの作成には上越教育大学大学院2年川中子学氏の協力を得た。